

1 授業時数特例校制度導入の考え

(1) 実施の目的

◎～明るくすなおで、思いやりのある豊かな心の子どもの育成～

「学校やクラスをもっとこうしたい！」という夢を、上乘せされた26時間をフル活用して、子どもたちが自分たちの手で形にしている姿。困っている仲間がいれば、誰かがそっと手を差し伸べる「ピア・サポーター」の心が当たり前のようにあふれ、全員が「ここにいていいんだ」という安心感と、「自分の力が役に立っている」という誇りを感じている姿。

○「夢・学び・感謝の絆プロジェクト」をエンジンとし、子どもたちを「教育の対象」ではなく「学校づくりのパートナー」とする教育の充実
先生と子どもが手を取り合い、毎日が驚きと発見に満ちた、子どもたち自身の手で「楽しい」を創り出すワクワクする学校づくりを、総力戦で推し進めます。

(2) 解決を図る学校課題

1. 「自分たちの力」への自信：児童アンケートにおいて、「自分たちのアイデアや行動で、学校生活がもっと楽しくなった」と回答する児童を100%にする。
2. 「誰かの役に立つ」誇り：児童アンケートにおいて、「自分は仲間の力になれる存在（絆サポーター）だ」と自信を持って答えられる児童を90%以上にする。
3. 「一人にしない」安心感：客観的なデータ（Q-U等）において、クラス全員が「自分の居場所がある」と感じ、いじめや孤立のない温かい集団を教職員の総力戦で守り抜く。

(3) 保護者・地域住民への周知

・（前年度）

3月参観日を利用した学年末「全体懇談会」を低、高に分けて実施し、保護者に説明（特に上乘せをして推進することを中心に）

- ・ 4月「学校だより」にて制度導入の目的および具体的内容について周知
- ・ 4月「参観日・懇談会」の学年経営方針を伝える折に本制度を導入した教育活動についても説明（保護者にも体験してもらう）
- ・ 11月「一日地域参観日」にて、全校ピア・サポート活動の公開
- ・ 12月「学校評価」による検証

2 各教科等年間授業時数

上段…学校教育法施行規則に定める標準授業時数 下段…変更後の授業時数（授業時数の増減）

学年		第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
各教科の授業時数	国語	306 296(-10)	315 305(-10)	245 232(-13)	245 229(-16)	175 168(-7)	175 168(-7)
	社会	-	-	70 65(-5)	90 85(-5)	100 97(-3)	105 105
	算数	136 136	175 175	175 175	175 175	175 175	175 169(-6)
	理科	-	-	90 90	105 105	105 102(-3)	105 105
	生活	102 97(-5)	105 100(-5)	-	-	-	-
	音楽	68 65(-3)	70 67(-3)	60 60	60 60	50 48(-2)	50 48(-2)
	図画工作	68 65(-3)	70 67(-3)	60 54(-6)	60 56(-4)	50 48(-2)	50 48(-2)
	家庭	-	-	-	-	60 55(-5)	55 50(-5)
	体育	102 97(-5)	105 100(-5)	105 103(-2)	105 104(-1)	90 87(-3)	90 87(-3)
	外国語	-	-	-	-	70 69(-1)	70 69(-1)
	特別な教科である道徳の授業時数	35 35	35 35	35 35	35 35	35 35	35 35
外国語活動の授業時数	-	-	35 35	35 35	-	-	
総合的な学習の時間の授業時数	-	-	70 70	70 70	70 70	70 70	
特別活動の授業時数	34 60(+26)	35 61(+26)	35 61(+26)	35 61(+26)	35 61(+26)	35 61(+26)	
合計	850	910	980	1015	1015	1015	
学校行事	39	40	39	41	48	45	
児童会活動	0	0	2	16	16	16	
クラブ活動	0	0	0	5	5	5	

第1学年の余剰を含めた総授業時数 [871時間] 余剰時数 [21時間]
 第2学年の余剰を含めた総授業時数 [939時間] 余剰時数 [29時間]
 第3学年の余剰を含めた総授業時数 [999時間] 余剰時数 [19時間]
 第4学年の余剰を含めた総授業時数 [1031時間] 余剰時数 [16時間]
 第5学年の余剰を含めた総授業時数 [1025時間] 余剰時数 [10時間]
 第6学年の余剰を含めた総授業時数 [1015時間] 余剰時数 [0時間]